

第2章 計画の基本的考え方

1 西東京市版地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて

基本理念

ともに支え合い、いつまでも楽しむ
～西東京市版地域包括ケアシステム～

基本目標 **1** 人と地域とつながり、いきいきと暮らす

介護予防・生活支援

生きがい推進・社会参加

- 生きがい推進事業
- 老人クラブ
- 街中いきいきなサロン
- いきいきミニデイ
- 社会参加マッチング事業

フレイル予防の推進

- フレイル予防の啓発
- フレイルチェックの実施
- フレイルサポーターの養成
- フレイル予防事業の実施

リエイブルメント(再自立)の推進

- リハビリテーション専門職の訪問アセスメント
- 短期集中予防サービス
- 地域資源の活用・社会参加へのつなぎ
- みんなのい〜な会議

関係機関

民生委員・児童委員

地域住民

地域包括支援センター

フレイルサポーター

通院・入院

在宅療養連携支援センターにしのわ

- 自宅
- サービス

医療

在宅医療

入院医療

- 急性期 ● 回復期 ● 慢性期

外来、在宅

- かかりつけ医 ● 診療所・病院
- 歯科診療所 ● 薬局
- 認知症疾患医療センター

- 在宅療養連携
- 医療介護連携
- 在宅療養後方



健康寿命の延伸を目指し、高齢者の方が、住み慣れた地域で、いきいきと元気に暮らしていける環境を整備するとともに、医療・介護の連携強化や、介護サービス基盤の整備促進などにより、安心して在宅生活を送ることができる環境・仕組みづくりを進めます。

く、自分らしく暮らせるまち西東京

包括ケアシステムの深化・推進～

介護予防・日常生活支援総合事業

- 介護予防・生活支援サービス事業
- 一般介護予防事業

その他の取組

- 地域ぐるみの見守り・支え合い
- 家族介護者（ケアラー）支援
- 保健事業と介護予防の一体的実施

基本目標 **2** なじみの環境の中で、必要なサービスを受けながら暮らす

様々な生活支援の充実

- ささえあいネットワーク
- 西東京市暮らしヘルパー
- 家族会・介護者のつどい

認知症施策

- もの忘れ予防検診
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症カフェ
- 認知症サポーターの養成
- チームオレンジ

介護保険サービスの充実

- 介護サービス基盤の整備
(看護小規模多機能型居宅介護等)
- 介護人材の確保・育成・定着支援
- 給付の適正化、ケアマネジメントの質の向上
- 事業者への支援



医療介護連携

支援センターにしのわ
支援病床確保事業

介護

施設・居住系

- 特別養護老人ホーム
- 認知症グループホーム
- 特定施設入居者生活介護 等

在宅系

- 訪問介護
- 訪問看護
- 通所介護
- 短期入所生活介護 等



2 基本理念

ともに支え合い、いつまでも楽しく、 自分らしく暮らせるまち西東京 ～西東京市版地域包括ケアシステムの深化・推進～

本市では、第8期計画において、「いつまでもいきいきと安心して暮らせるまち西東京市～みんなで支え合うまちづくり～」を基本理念に、「地域とつながり、楽しく暮らし、共に生きる」、「支援が必要となっても、なじみの環境の中で自分らしく暮らす」を基本目標に掲げ、「生きがい活動とフレイル予防の推進」、「生活支援体制の充実」、「認知症施策の推進」、「在宅療養体制の充実」、「安心して暮らせる環境づくり」、「介護保険サービス等の充実」の6つを施策の方向性として位置付け、各種取組を推進してきました。

しかしながら、長期化するコロナ禍において、高齢者の外出控えや人が集うイベント等の開催自粛等が、活動量の減少に伴う心身機能の低下や社会参加の意欲の減退を招くなどの弊害を生じさせたことから、それらへの対応が喫緊の課題となっています。

また、本市では、令和22(2040)年頃までの間、高齢化の進行と同時に生産年齢人口の減少も見込まれることから、これまで以上に医療・介護ニーズへの対応と人材確保・育成の取組が必要です。

第3次基本構想では、基本目標の一つである「笑顔で自分らしく暮らせるまち」において、「誰もが住み慣れた地域において健康で元気に暮らすためには、年齢や障害の有無等にかかわらず、一人ひとりが生きがいを感じながら、自分らしく過ごせることが大切であり、子どもから高齢者までの多様な世代が地域の中でつながり、それぞれが抱える生活課題の解決に向けて取り組むことが重要」としており、地域共生社会と「健康」応援都市の実現を掲げています。

医療・介護・住まい・生活支援・社会参加の支援が必要な人は、高齢者に限りません。経済的困窮者、単身・独居者、障害者、ひとり親家庭や、これらの要素が複合したケースに適切に対応するため、本市における重層的支援体制整備事業などにより、制度・分野の枠や「支える側」、「支えられる側」という関係を超えた取組を通じて、全ての人が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高め合う地域共生社会の実現とともに、まちそのものが健康になれる「健康」応援都市を目指します。

このため、第9期計画では、「ともに支え合い、いつまでも楽しく、自分らしく暮らせるまち西東京」を基本理念とし、市民や関係機関、行政が地域一体となって福祉や医療・介護などの支援・サービスを提供する「西東京市版地域包括ケアシステム」のさらなる深化・推進に努めます。

3 基本目標

1 人と地域とつながり、いきいきと暮らす

2 なじみの環境の中で、必要なサービスを受けながら暮らす

第9期計画の基本理念「ともに支え合い、いつまでも楽しく、自分らしく暮らせるまち西東京」を実現するために、目指すべき方向性を明らかにする2つの基本目標を定めます。

まず、高齢者が「人と地域とつながり、いきいきと暮らす」ために、生活習慣病予防などの健康づくりと介護予防を連携して展開することにより、高齢者の健康寿命を延ばし、生活の質を高めていくとともに、高齢者が日常生活の中で気軽に参加できる活動の場が身近にあり、地域の人とのつながりを通して活動の場が広がるような地域づくりを目指します。

また、高齢者が「なじみの環境の中で、必要なサービスを受けながら暮らす」ことができるように、自立支援に資する質の高いケアマネジメントを実現するとともに、利用者の状態や家族等の周囲の状況、暮らし方などの変化や、本人の希望に柔軟に対応できるよう、必要なサービス提供体制の整備に努めます。

本市では、基本理念のもとに、2つの基本目標を掲げ、高齢者とその家族の願いに応える仕組みづくりを進めます。

Column 1

なじみの環境とは

なじみの環境とは、長く住んでいる地域で培ってきた人間関係……家族や友人、近所の人、よく買い物をする商店など、知っている人たちとの「なじみの関係」がある環境のことをいいます。日常生活の中にある、たくさんのなじみの関係には、多種多様な人とのつながりが含まれており、こうしたなじみの環境が途切れることなく続き、その人が、最期まで自分らしく生活できる居心地の良い環境となるようにすることが大切です。

地域包括ケアシステムが目指しているものは、なじみの環境をできるだけ大切にし、人生の最終段階まで、「自分らしい生活」を楽しむことができるようにすることだと考えられています。

4 施策の方向性(体系)

